



千八百七十八年四月四日
巴里日報抄譯

第壹號

大藏省
翻譯課

4273



414
A 727



洋曆一千八百七十八年四月四日木曜佛國巴里府日報抄譯

使節へ送りし廻章ノ翻譯ヲ登録ス昨日吾輩諸君ノ觀覽ニ供

セシ者ハ該文ノ抄録ナリ

僕女王陛下ノ命ヲ受ケ書ヲ公使閣下ニ寄セテ土耳其魯西亞西
政府ノ間ニ決セル仮条約並該条約ノ款項ヲ檢スル為メ集合セ
ント企テシ政洲ノ回使會ニ付キ英國政府ノ義務ト思惟シテ行
ヘル事ヲ閣下在雷國ノ政府へ解明センヲ請フ

魯政府ト土廷ノ間ニ和睦會議ヲ開カントスル由英國へ傳聞セ

シ依リ誤聞謬傳ヲ防カン為メ一月十四日女王陛下勅ヲコフ

テユス公在土英使英へ下シゴルチヤコフ公魯務回外外一報道セシメテ

曰ク英國政府以為ク魯土ノ間ニ定メタル条約ハ千八百五十六

年並ニ千八百七十一年ノ条約ニ抵觸ス宜ク夫ヲ政洲諸國ト議

大正十一年四月
藤井善言譯

ス可シ此二回ノ条約ニ加印セシ諸国ノ認可ヲ受ケサル条約ハ
公法ニ合ハズト全月廿五日魯政府ヨリ確答アリ曰ク歐洲ノ要
件ニ係ル者ヲ獨斷ニ決スルノ意ハ毫モナシト
然ルニ和議ノ綱領ハ己ニケガンリークニ於テ土魯兩國使節ノ
間ニ決シタリト傳聞シ英國政府ハ一月廿九日ロフチユス公ニ
命シ魯國政府ヘ報道セシメテ曰ク休戦ヲ約シ仮条約ヲ立ル為
メケガンリークニ於テ兩國使節ノ定メタル商議ハ己ニ二回ノ
承諾ヲ得タリト傳聞セリ然レモ英國ニ於テハ若シ巴里府ノ条
約ニ捺印セル諸国ノ提議ヲ經ガレバ歐洲ノ条約ヲ更改シ且英
國ノ利益ヲ害スル者タルヲ以テ此商議ヲ公法ニ合ハザル者ト
認ムト
全月二十日ロフチユス公右ノ旨趣ヲコルチヤコフ公ニ通セリ
公答ヘテ曰ク休戦ヲ約スルニハ和議ノ綱領若干項ヲ立テザル

ヲ得ス然レモ此綱領中歐洲ニ関スル要件ニ至ラハ仮条約ナリ
本條約ト見做ス可キト加之同公明言スラク歐洲ノ利害ニ関
スル条件ハ歐洲ノ諸国ト共ニ討論制定セン且該件ニ付テハ己
ニ貴國政府ヘ明白ナル契約ヲ為セリト
二月四日奧國々使電報ヲ以テ遼列顛政府ヘ雖也納ノ會談ニ預
ルヲ請フ政府ハ直ニ之ヲ許容セリ
二月五日同國使ヨリ來會ヲ求ムル公文ヲ寄送ス昏中左ノ文ヲ
記載セリ
奧地利匈牙利ハ東邦論ヲ定ムルヲ主意トセシ萬國決議昏ノ
如印國タルヲ以テ現今ノ戰爭ニ對シ將來ノ和睦条約ノ結局
ノ畫定ニ干預スル權利ヲ有ス
此事ヲ魯政府ヘ通知セシニ魯政府ハ之ヲ十分ニ認可セリ
今ヤ土魯兩國ハ和睦ノ仮条約ニ捺印セリ宜ク歐洲ノ提議ヲ

立テ彼ノ萬國條約中ニ為サ、ル可ラザル變政ノ事ヲ定ム可
シ
此條約ヲ立ルノ方法ハ千八百五十六年ノ巴里府條約會簽
ハ百七十一年ノ龍動府條約書ニ捺印セル諸國ノ會談ヲ起ス
ニ在リ

三月九日奧國政府ノ來信ニ曰ク曩ニ議セシバードノ會談ヲ因
使會ニ改メテ之ヲ伯林ニ開カバ如何ト英國政府之ニ答ヘテ曰
ク此改替ニ於テハ異議ナシ然レニ土魯兩國ノ和談ニ関スル條
件ハ悉皆國使會ノ論決ニ任クス可キ者ト見做シ又曰條約中ニ
預定セル款項ニ變政ハ萬國ノ承諾ヲ受ルニ非サレバ公法ニ違
フ者ト認ム可シ此ニケ條ヲ預メ先ツ確定セレトテ希望スト
同日十二日テ英國外務卿ブスト候ニ云テ曰ク英國政府ハ國
使會ノ會同ヲ許諾スル前ニ九日ノ信ニ掲ケタル件々ノ分明ニ

確定セララルト要スト
十日政府石 第一條ヲ一層分明ニ解シテ曰ク國使ノ會同ヲ

確定許諾スル前ニ土魯兩國ノ結ヒタル條約ノ各款ヲ國使會
附スルハ強テ之ヲ認可セヨト云フニ非ズ萬國ノ認可或ハ助成
ヲ受テ可キ者ハ何々ノ件ナルヤ然ラザル者ハ何々ノ件ナルヤ
ヲ檢セシムルニ在リト云フヲ明白ニ了解セシテ欲スト
十四日魯國々使ヨリゴルチヤコフ公ノ電報ヲ外務卿ヘ寄送ス
其旨ハ在ノ如シ

土廷ト定メタル和睦條約ノ全文ハ約契交換ノ時ニ至レバ報
道セン但此事ハ已ニ近日ニアリ且此地ニ於テ彼我同時ニ之ヲ
公告セン隱蔽ス可キ事ハ更ニ無シ請フ今諸大國古ノ旨趣ヲ知
道セヨ

十七日ロフヂニス公ゴルチヤコフ公ヨリ左ノ信ヲ得タリト

開申セリ

グスト候が同使ヲ柏林ニ會同セシトノ説ニテルビ候ノ回答セシ昏翰ヲロフチニス公ヨリ示サレシニ付キ其報答トシテ茲ニ陳述セン土魯兩國ニテ定メシ仮条約ハ未タ回使會ヲ開カザル前ニ原文ノマ、諸國へ報道セシ該會ニ於テ各國十分ニ可否ヲ述フ可シトノ旨趣ヲ英國ニ告ルハ正ニスクウハル候ニ委任セリト

十八日利達ノ昏中ニハゴルチヤコフ公ロフチニス公ニ云テ曰ク國使會議負ヲシテロフカ開カシメサルハ理ニ於テ不可ナリト並氏余約昏中歐洲ノ利害ニ関セザル条件ハ討論ヲ受ケ難シトテルビ公スクウハル候ニ託シテゴルチヤコフ公ノ意ヲ問フト九日スクウハル候共テテ曰ク余ハ次件ヲ述ルハ託セラレタリト

土魯ノ商ニ決セシ茶稅昏ハ公明正大無比ノ者ナリ故ニ回使會同々前ニクテ王陛下ニ報道シテ遺漏スル所ナカラシ

英國政府モ亦タ自餘ノ諸國ト同ク回使會ニ於テ十分ニ可否自由ヲ有スル者トス借此自由ヲ各國ニ認可スルニ依テ魯國モ亦之ヲ已レニ有セント欲ス魯國獨リ預メ約スル所有ルハ是レ自由ノ権限ヲ退縮セラルナリト

廿一日テルビ候答ヘテ曰ク英國政府ハ未タ回使會ニ入ラザル中ニ魯土茶約ノ款項ハ認可ヲ受ルヲ必要トセズ只何々ノ条件ハ諸國ノ認可ス可キ者ナリ何々ノ条件ハ然ラストノ検査ヲ受ル馬ノ回使會ニ附スル者ナリト明白ニ了解セント欲スル主意ヲ固守ス

預メ約スル所有テハ回使會中魯國ノ自由ヲ退縮スト云フゴルチヤコフ公ノ説ヲ英國ハ許容シ難シ

且向ハシ魯國ヨリ条約ノ全文ヲ各國ヘ報道スルハ該条約昏ヲ
現行条約昏ニ照シテ核査討論セラレンガ為メ國使會ヘ同陳ス
ルナリト見做スヲ許容スルヤ如何ト

廿六日スクウハル候テルビ公ニ報道シテ曰ク魯國政府ハ曩ニ
英國ヘ陳述セシメタル言辭元ニ三月十九日ノ昏中ニ掲ケタル
言辭ヲ守ルヲ其義務ト見做ス

魯國ガ國使會ニ有スト信スル可否ハ自由ナル文字ヘ種々ノ義
解ヲ下ス者アルガ故ニ魯國ハ此字義ヲ左ノ如ク定メタリ

魯國ハ諸國ニ許スニ随意ノ問題ヲ國使會ニ奏スルノ自由ヲ以
テセリ而シテ魯國ハ此問題ノ論議ニ服シ或ハ服セザルノ自由
ヲ有スト

